

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.4



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2009 Autumn-Winter

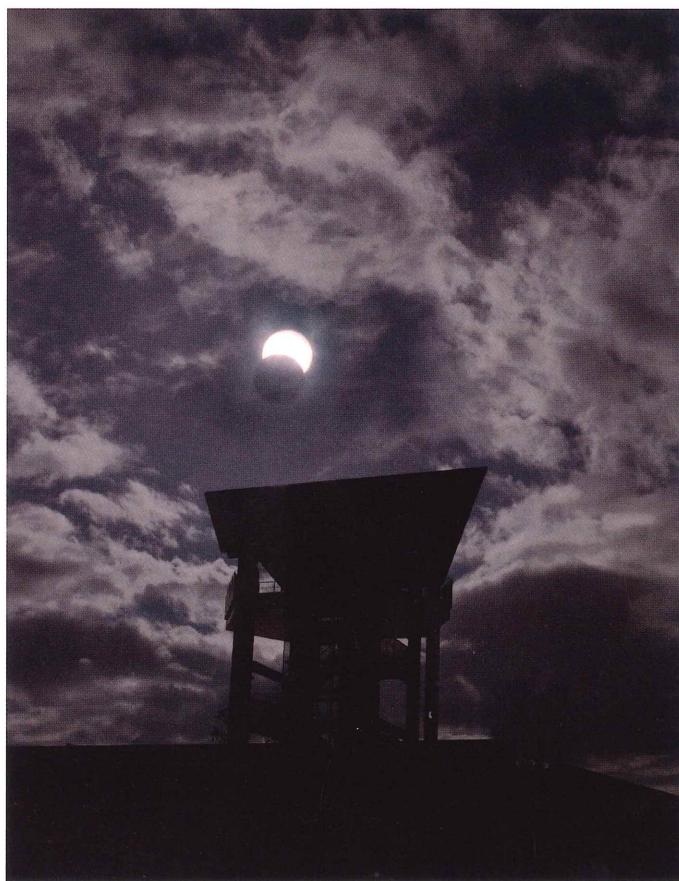


Photo : Taiyou to Tou 2009

— 平成21年 —

■特別展「古代祭祀の世界」	2
■調査研究「賀古駅家を調査する」	4
■シリーズ学芸員が選ぶ「私のイチオシ館藏品1」	5
■古代体験で楽しみませんか	6
■古代体験学習交流会「古代体験・秋まつり」	7
■イベントスケジュール	8

特 別 展

# 「古代祭祀の世界」

全国各地で発掘された出土品の中には、「祭祀遺物」と呼ばれる実用品でないもの、非日常的な呪術や儀礼・信仰などの精神生活に関わるものがたくさんあります。縄文時代の土偶・石棒、弥生時代の銅鐸・銅剣・銅戈、古墳時代の鏡・剣・玉があり、それを滑石や土で作った鏡や剣などの模造品、奈良・平安時代の木で作られた人形・馬形などの模造品がその代表です。

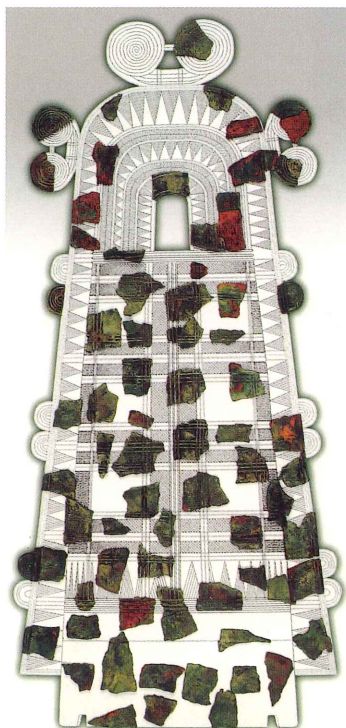
これら祭祀遺物の変遷は、短期で見ると変化がないものでも、時代を越えた長期的な眼で捉えると、「断絶・継承」されたものが見え、当時の社会や国家が自分達の未来を決めるために、選択した「精神世界」が浮かび上がってくるのです。

本展覧会では、こうした「古代祭祀の世界」を九州沖ノ島遺跡や都城遺跡の出土品、兵庫県内各時代の祭祀遺物でご紹介いたします。

古代人の精神世界をお楽しみください。

## 第1章 「土偶と石棒のまつり—縄文時代—」

土偶と石棒に象徴される、縄文社会の活力と生命の誕生並びに豊穡の祭祀から、原始・古代人の精神世界に入ってみましょう。



## 第2章 「銅鐸から銅鏡のまつりへ—弥生時代—」

水稻耕作の開始に伴う石棒・土偶の縄文祭祀の変質、そして大陸から伝わった青銅器を改変した銅鐸・銅剣祭祀、さらに銅鐸の否定(断絶)から生まれた銅鏡祭祀を取り上げます。

ここで注目して欲しいのは、豊岡市日高町出土の久田谷破砕銅鐸です。

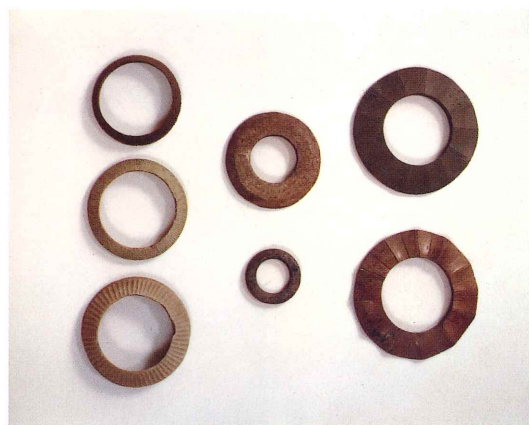
久田谷（豊岡市）出土  
「銅鐸」

## 第3章 「王権と土着神のまつり—古墳時代—」

倭王権祭祀の鏡・剣・玉（いわゆる三種の神器）が主流になると、これらを石や土などで作る模造品も普及していきました。



国宝 宗像・沖ノ島遺跡（福岡県）出土  
「三角縁神獣鏡」



国宝 宗像・沖ノ島遺跡（福岡県）出土  
「石鉏・車輪石」



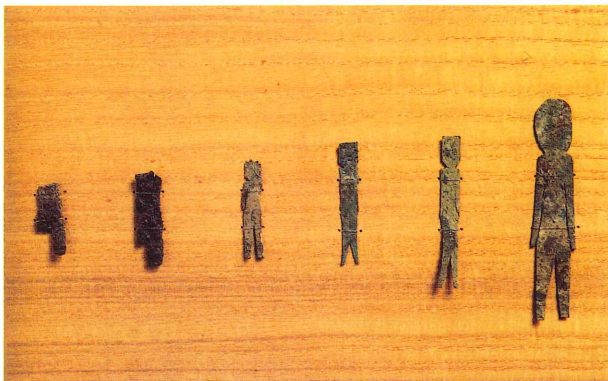
河高・上ノ池遺跡（加東市）出土  
「土製模造品」



王権と関わる九州宗像・沖ノ島遺跡の祭祀遺物(国宝石釧・銅鏡など)と兵庫県下(長越遺跡、伊和遺跡など)の石製模造品(鏡・剣・玉など)。そして、土製模造品(人形・鏡・玉・食物形・馬形など)を使用する土着の水神祭祀、峠神の祭祀、生産の場での祭祀。さらに、葬送儀礼の場での祭祀(埴輪など)を取り上げます。

#### 第4章 「人形祭祀の成立と終焉—飛鳥・奈良・平安—」

次に、律令制国家の祭祀では古墳時代木製祭祀具の一部(刀形・斎串など)と土製馬形を継承し、これに新しく木製人形・馬形と人面墨書土器などを加え、律令祭祀具が成立しました。



国宝 宗像・沖ノ島遺跡(福岡県)出土  
「金属製人形」

ここでは律令祭祀の先駆形態を示す宗像・沖ノ島遺跡の祭祀遺物(国宝龍頭・金属製人形など)と都城遺跡の木製模造品(人形・馬形・舟形・斎串など)、金属製模造品(人形・鏡・鈴など)、人面墨書土器・土製馬形を使用する祭祀。そして、兵庫県内(豊岡市袴狭遺跡、川岸遺跡など)の木製模造品(人形・馬形など)を取り上げます。

注目して欲しいのは人形の形態変化です。9世紀中頃に手の部分を、作らなくなります。律令国家が衰退に向かう兆しです。

#### エピローグ「今につながる古代人のこころ」

こうして原始・古代のまつりを見てくると、いつの世も人々は健康・長寿、除災・招福、豊穰・繁栄を祈り、病気・災いを生む原因となるケガレや悪霊・疫神・鬼神、これらを居住空間に入れないように外へ追い出す努力をしてきたようです。

古代の役所で始まった人形祭祀は、陰陽師を通じて徐々に民衆の間に拡がり、現代では神社祭祀に継承されているのです。

(学芸課長 大平 茂)

## ～特別展「古代祭祀の世界」のご案内～

**会 期** 10月3日(土)～11月29日(日) 50日間

**場 所** 当館特別展示室

**休 館 日** 月曜日(祝日にあたるときは翌日)

**講 演 会** 各回 13:30～15:00(講堂)

10月10日(土) 「弥生・古墳時代の祭祀」 辰巳和弘(同志社大学教授)

10月24日(土) 「九州宗像・沖ノ島祭祀遺跡の調査」 弓場紀知(京都橘大学教授)

11月15日(日) 「都から拡がり伝わる  
“まつり”さまざま」 水野正好(奈良大学名誉教授)

11月23日(月・祝) 「祭祀の継承と断絶」 大平 茂(当館学芸課長)

**イ ベ ン ト** 11月21日(土) 13:30～ 「ミニ茅の輪づくり」

11月28日(土) 13:30～ 「銅鐸破壊実験～壊れた銅鐸のナゾに迫る～」

**観覧無料日** 11月7日(土)、11月14日(土)、11月15日(日)



## 調査研究

かこのうまや  
「賀古駅家を調査する」

当館では、都と地方を結ぶために造られた古代官道とそれに伴う駅家の調査研究を平成19年度から行っています。県下全体を対象に現地で地形や地籍を見たり、遺物の採集を行ったり、地中レーダーを使った探査を行ったりしてきました。

平成20年度から21年度には、全国7道のうち唯一の「大路」として位置づけられている古代山陽道とそこに設けられた駅家の一つ、「賀古駅家」について発掘調査することとなりました。

賀古駅家は平安時代に記された『延喜式』では、全国で最も多い40頭の馬を置くように決められていました。

その場所については

- ①『播磨国風土記』や『延喜式』などの文献資料
- ②条里地割りから復元した古代山陽道のルート
- ③正確に東西南北に沿った正方形の地割りの存在
- ④そこで採集された瓦が播磨国に關係する公的機関のものと同じ
- ⑤北方に所在する教信寺との位置関係（教信沙弥が賀古駅家の北に住んでいた）

といった理由から加古川市野口町古大内にある古大内遺跡が賀古駅家であったと考えられていました。

そこで今回、推定されているように駅家が存在するのかどうか発掘して確かめることにしました。しかし、駅家の中心施設である駅館院の内部は市街化が著しく発掘調査ができないため、東隣にある推定古代山陽道と駅館院に挟まれた地点を発掘することになりました。

発掘調査の結果、古代山陽道の推定ルートから道



駅館院へと延びる進入路  
(フェンスの内側が駅館院、上が西)

の側溝と考えられる溝が見つかり、想定どおりに古代山陽道が通っていた可能性が高くなりました。また、駅館院と推定された正方形の地割りに沿って築地堀の雨落ち溝と思われる溝が見つかり、現在残されている正方形の地割りは推定どおり駅館院を表していることがわかりました。さらに古代山陽道から駅館院に向かって道が延び、東辺に至っていることがわかり、駅館院へは東門を通して入る構造になっていたようです。

また、発掘調査と並行して礎石の調査も行いました。現在、駅館院内にある大歳神社には賀古駅家の礎石と考えられる石材が集められており、その中に、門を支えていた唐居敷とよばれる部材があることがわかりました。唐居敷には柱を置く平らな部分があり、その横に扉の軸を受ける穴（軸摺穴）、そして柱と軸摺穴の間には方立という長方形の板を立てる



唐居敷の方立穴と軸摺穴

ための穴（方立穴）が掘りくぼめられています。

出土遺物には丸瓦、平瓦のほか、鬼瓦や軒丸瓦があります。土器も少量見つかりました。また特に注目されるものとして鉄滓や轆の羽口といった鍛冶道具が挙げられます。駅館院内から捨てられた状態で見つかっており、院内でも鍛冶を行っていたことを示しています。

こうした調査成果は他の駅家と比較検討することで意味をもってきます。これまでも播磨は駅家研究が進んだ地域でしたが、今回の調査によりさらに大きく前進することとなりました。

(学芸課 中村 弘)



シリーズ

# 学芸員が選ぶ 私のイチオシ館蔵品1 「垂水付近出土磨製石剣」

この黒光りする美しい石器は、石を丹念に磨いて「剣」の形にこしらえたもので、磨製石剣と呼ばれています。

その発見は昭和21年に遡り、神戸市垂水付近で耕作中の田畑で偶然に採集されたものです。石剣は黒色の質の良い粘板岩製で、全長は37.5cmもあり、最大幅5.3cm、厚さ1.1cmと長さに対して薄く仕上げられています。剣の形は、弥生時代の青銅の剣の形を模して作られているため、「銅剣形石剣」と呼びます。

銅剣は弥生時代の初め頃に朝鮮半島から武器として伝わりましたが、次第に実用性が薄れ、幅の広い大型品となってマツリの道具へと変化していきます。「銅剣形石剣」は、まだ武器としての機能が残った段階の銅剣を模倣していますが、その用途としては祭器としてマツリに使われたと考えられています。しかし、所々に刃こぼれ状の欠けが認められるものもあり、実際の戦いにも使われたかもしれません。

銅剣と並んだ写真をよく見てください。全体的なプロポーションは銅剣の形をよくとらえていることがわかりますが、よく見ると違いもあります。

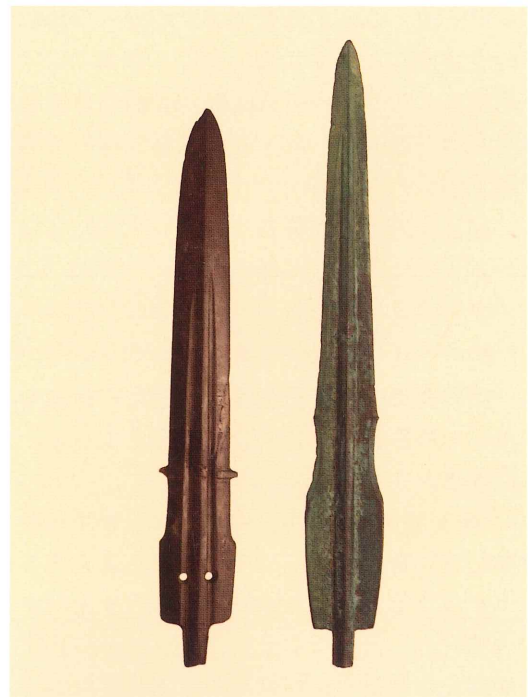
石剣のほうは、他の多くの「銅剣形石剣」と同じく、血流しのための細い二本の溝（樋）が見られます。しかし、銅剣は溝ではなく、中央に走る丈夫な脊（むね）から水平にのびる翼（よく）で形作られているのです。銅剣本来の形を忠実に模した石剣も河内や和泉など畿内中央部を中心にわずかながら発見されています。

それにもかかわらず、畿内中央部では今のところ銅剣は発見されていません。銅剣が出土している遺跡は垂水から最も近いところでは、神戸市西区の玉津田中遺跡、他は三木市や南あわじ市となります。垂水出土の銅剣は、銅剣本来の形とは少し異なっているとはいえ、これを作った弥生人にとって銅剣が身近なものであったことは間違いのないでしょう。

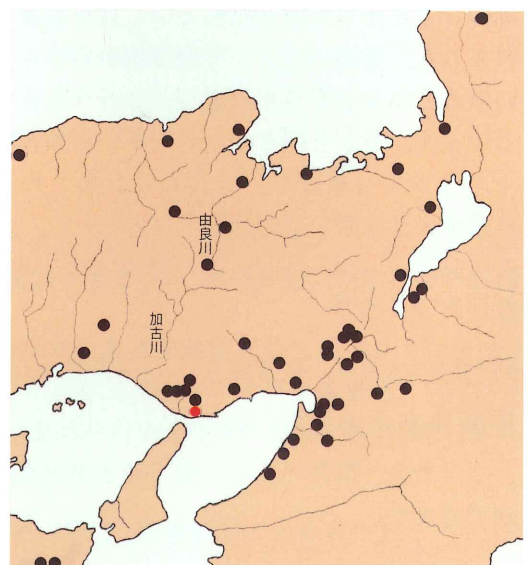
さて、銅剣が北部九州から多く発見されるのに対して、このような「銅剣形石剣」は、兵庫・大阪・京都・福井に集中します。瀬戸内海と日本海の沿岸部をつなぐかのように加古川から由良川に沿って出土している様子から、弥生時代の重要な交通ルート

が想定され、「加古川・由良川の道」と呼ばれました。

今回紹介した資料は兵庫県を代表する考古学者であった故村川行弘氏のもとで長らく保管されていたものですが、現在は当館に寄託されています。



左：垂水付近出土磨製石剣  
右：古津路遺跡（南あわじ市）出土銅剣（複製）



磨製石剣の出土地（●が本資料出土地）

（学芸課 藤田 淳）

## 古代体験で楽しみませんか

当館では、いつご来館いただいても古代体験を楽しんでいただけます。昨年度は延べ27,000人（入館者の約15%）の方にお楽しみいただきました。古代体験のメニューは、職員とボランティアが相談して作り上げたものです。開館の5年前から博物館ボランティアの養成を行ってきましたが、その修了者（考古楽者／こうこがくしゃ）が開発していた体験メニューが下地となっています。メニューの数は大きく分けて17種類ありました。

その中からお客様が当日気軽に参加できるものを中心に5つを選びました。選ぶ基準となったのは次の5点です。

- 1) 毎日体験できるもの
  - 2) あまり時間がからないもの
  - 3) 費用が高額にならないもの
  - 4) 持って帰ることができるもの
  - 5) 指導にあたり技術を容易に覚えられるもの
- メニューの名前は内容決定後に考えました。

- 1) 抽象的でも面白い名前
- 2) 「何をするか」「何を作るか」を表す名前に留意して、職員やボランティアが名前を出し合い、その中からメニューにふさわしいものを選びました。

### ①不思議なひもづくり ―ループで組みひも―

当館で一番の人気メニューです。平成20年度は延べ11,000人の方が体験しました。輪（ループ）にした3本のひもを使って指で組んでいく点を名前にとりいれました。指使いひとつで何種類かのひもを組んでいけるという点を「不思議な」という名前で表現しています。子ども向きのものが多い古代体験メニューのなかで「組ひも」は大人でも楽しめるメニューです。

### ②まが玉をつくらう

「まが玉づくり」はどの博物館でも人気があるメニューです。「不思議なひもづくり」に次ぐ人気メニューで、昨年約8,700個のまが玉が作られました。白色、ピンク色、黒色の3色の滑石製まが玉を作ることができます。

### ③ドキドキ！ヒッタンコ ―土器あわせ―

考古学の仕事には遺跡から出土した土器の破片を



古代体験の賑わい（体験学習室1）

貼り合わせる「接合（せつごう）」という作業があります。これを体験していただくメニューとして考えました。当初は本物の土器を合わせてみるメニューでしたが、多くの方に手軽に体験していただけるよう、紙製のパズルとしました。さらに本物の土器に触れることが出来るよう体験学習室1に遺跡から出土した奈良時代の土器を用意しています。

### ④こすってこすってアッチッチ！

#### ―古代の火をおこそう―

「こすってこすってアッチッチ」というのは、木をこすり合わせて火を付けるイメージで名付けました。開館当初は「舞ぎり法」による1種類の火をおこしただけでしたが、現在は4種類の火おこし方法を体験できます。こどもから大人まで楽しめるメニューです。

### ⑤ミニミニ石包丁づくり ―石製穂摘み具づくり―

滑石を削って作品をつくるメニューで、「まが玉づくり」よりも作り方は簡単です。教科書では「石包丁」という名前で知られていますが、包丁ではなく米を収穫する際の道具です。本来の用途を表す「穂摘み具（ほつみぐ）」を名前に付けました。

5種類から始めた古代体験メニューですが、小さなお子様でも楽しめるように塗り絵やパズルなども追加しました。9月から「組ひも」に新しいメニューが登場しています。お楽しみに。

（学習支援課 村上 賢治）



## 古代体験学習交流会「古代体験・秋まつり」 ～この秋もやっぱり考古博～

### 日本中の古代体験が大集合

今年も11月7日に古代体験プログラムの先進的な取り組みを行っている日本各地の博物館等を招き、これに県内の博物館や資料館、教育委員会や学校(教員)も加わって、古代体験をテーマにしたイベント「古代体験・秋まつり」を行います。

これは県内外の博物館等の施設と連携し、古代体験を通してネットワークを拡げていく試みの一環でもあります。今回で3回目になります。

また、この日はより多くの県民に興味関心をもってもらえるよう、史跡大中遺跡を活用した地元播磨町が開催する「大中遺跡まつり」とタイアップして実施しています。

昨年は天候にも恵まれ、約1万5千人もの参加者があり、県民の関心と期待の大きさを知ることができました。



### 素敵な体験が盛りだくさん

当館の前庭にあたる「体験広場」にテントブースを設営し、体験プログラムを披露したり、参加各施設での取り組みをパネルで展示しました。

古代体験コーナーでは、勾玉づくりや埴輪ストラップづくり、ミニチュア竪穴住居づくりなど、多くの参加者でにぎわいました。年齢に関係なく興味をひく体験が多く、飽きることなく楽しめました。

当館の出し物は、「石器の切れ味体験」として、鹿肉の解体ショーや鹿肉料理、弓矢体験等を行いました。特に本物の鹿肉を石器で解体していくようすは、「古代人の生活」そのもの。観衆は目を輝かせて見学していました。

参加の施設や教育委員会、学校もそれぞれの地域の特性を生かした多彩なプログラムで協力していただきました。

県外からの今回参加予定の主な団体は以下のとおりです。

九州国立博物館（福岡県）  
大阪府立弥生文化博物館（大阪府）  
大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府）  
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館（奈良県）  
滋賀県埋蔵文化財センター（滋賀県）  
東近江市埋蔵文化財センター（滋賀県）  
和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山県）  
香川県埋蔵文化財センター（香川県）  
鳥取県教育委員会妻木晩田遺跡事務所（鳥取県）  
宮崎県立西都原考古博物館（宮崎県）  
増田文物工作隊

### 新たなプログラム開発のための情報交換

この「秋まつり」は、出展参加施設のスタッフの方々にとっては大切な情報交換の場です。持参したキットを交換しあったり、実際にプログラムに参加して情報収集したりされている様子があちこちで見られました。

また、会場のあちこちで新たなプログラム開発についてだけでなく、運営方法の改善などの意見交換が自然に発生していました。これも、このイベントの大切な目的のひとつなのです。



### この秋もやっぱり考古博

「古代体験・秋まつり」は11月7日(土)に開催します。(天候により順延の場合は11月8日)

よりバージョンアップしたものにしようと準備に力を注いでいます。

みなさん、弥生の秋を見つけに考古博にいらっしゃいませんか？

(学習支援課 石丸 裕志)



## イベント・スケジュール

展示会	月	学 ぶ		体 験 す る	
		講 演 会 ・ 講 座	解 説 ・ ツアー	イ ベ ント	講 座
特別展「古代祭祀の世界」	10月3日～11月29日	10月10日(土) 「弥生・古墳時代の祭祀」 辰巳和弘(同志社大学教授)	10月4日(日) 特別展展示解説 10月4日(日) 実演よみがえる古代の出土品 10月10日(土) バックヤード見学ツアー 10月11日(日) 特別展展示解説 10月18日(日) 特別展展示解説 10月18日(日) 実演よみがえる古代の出土品 10月25日(日) 特別展 展示解説		10月11日(日) 本格土器づくり講座(土器成形) 10月18日(日) 大中遺跡でどんぐりひろい 10月25日(日) どんぐりであそぼう 10月31日(土) 本格土器づくり講座(土器焼成)
	11月	11月15日(日) 「都から拡がって伝わる“まつり”さまざま」 水野正好(奈良大学名誉教授)	11月1日(日) 特別展 展示解説 11月1日(日) 実演よみがえる古代の出土品 11月8日(日) 特別展 展示解説 11月14日(土) バックヤード見学ツアー 11月15日(日) 特別展 展示解説 11月15日(日) 実演よみがえる古代の出土品 11月22日(日) 特別展 展示解説 11月29日(日) 特別展 展示解説	11月7日(土) 考古博古代体験・秋まつり 11月14日(土) 考古博で古代米を作ろう2009(稲刈り・予定)	11月15日(日) ワクワク古代のかごづくり 11月21日(土) ミニ茅の輪づくり 11月22日(日) 本格古代組紐講座
	12月	12月5日(土) 公開講座 兵庫考古学研究最前線2009 「漆が守った課税台帳—姫路市・豆腐町遺跡—」 中川猛(姫路市教育委員会)	12月6日(日) 実演よみがえる古代の出土品 12月6日(日) ギャラリートーク 12月12日(土) バックヤード見学ツアー 12月20日(日) ギャラリートーク 12月20日(日) 実演よみがえる古代の出土品	12月23日(火)～12月25日(金) 考古博クリスマスアター	12月20日(日) ワクワクしめ縄づくり
企画展「ひょうごの遺跡voice.2」	1月16日～2月28日	1月9日(土) 公開講座 「大和の王宮と王墓」 石野博信(当館館長)	1月3日(日) ギャラリートーク 1月9日(土) バックヤード見学ツアー 1月17日(日) 企画展展示解説 1月17日(日) 実演よみがえる古代の出土品 1月24日(日) 企画展展示解説 1月31日(日) 企画展展示解説	1月2日(土) 考古博たこあげコンテスト 1月3日(日) 新春もちつき大会 1月3日(日) 考古博カルタ大会 1月9日(土)～1月11日(月) 考古博であそぼう	1月24日(日) 本格古代組紐講座
	2月	2月6日(土) 公開講座 兵庫考古学研究最前線2009 「渡来人のいたムラ—上郡町・竹万宮・前遺跡—」 上田健太郎(当館学芸員)	2月7日(日) 企画展展示解説 2月7日(日) 実演よみがえる古代の出土品 2月13日(土) バックヤード見学ツアー 2月14日(日) 企画展展示解説 2月21日(日) 企画展展示解説 2月21日(日) 実演よみがえる古代の出土品 2月28日(日) 企画展展示解説	2月11日(木・祝) 考古博であそぼう	2月7日(日) 本格勾玉づくり講座 2月9日(火) 教員セミナー「教えるよう古墳時代の兵庫」
3月20日～4月11日 2009年度 「兵庫県発掘調査速報」	3月	3月20日(土) 公開講座 兵庫考古学研究最前線2009 「徹底討論!どこまで見えた?古代の道と駅家」 山下史朗・西口圭介・中村弘(当館学芸員)	3月7日(日) ギャラリートーク 3月7日(日) 実演よみがえる古代の出土品 3月13日(土) バックヤード見学ツアー 3月21日(日) ギャラリートーク 3月21日(日) 実演よみがえる古代の出土品 3月28日(日) 企画展展示解説	3月20日(土)～3月22日(月) 考古博であそぼう	

毎週土曜日は「石棺に入ろう」、日曜日は「古代船に乗ってみよう」 14:00～15:00 毎月第2・第4土曜日は竪穴住居復元プロジェクト実施日

■休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)、12月14日(月)～12月18日(金)、12月31日(木)、1月1日(金)

■観覧無料日：11月7日(土)、11月14日(土)、11月15日(日)の3日間は観覧料無料。(特別展の観覧も無料になります)

## 兵庫県立考古博物館NEWS vol.4 2009 Autumn-Winter

発行年月日 平成21年9月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

http://www.hyogo-koukohaku.jp

●電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分

山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分

●お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km

■駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車1回200円)

※団体のお客様でバスご来観される場合は、あらかじめ博物館にご連絡下さい。



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。

## 兵庫県立考古博物館

